

# 領域「表現」の授業のあり方(2)

## —『幼稚園のための指導書 音楽リズム編』から学ぶ—

木下由香

(2021年3月1日受理)

### Ideal way of class in the Area of "Expression" (2) Learn from *Guidance Book for Kindergarten :Music Rhythm:*

Yuka KINOSHITA

要旨：『保育要領』発刊後に発表された『幼稚園のための指導書 音楽リズム編』には、『幼稚園教育要領』には見られない音楽的な指標と身体的表現を通じた実践の重要性が明確に記され、発達に即した系統的な指導の段階と順序が示された。また付録楽譜の楽曲は、音の長短や強弱の対比、呼応の手法、オクターブや三和音、三度、六度など左右の重音によるハーモニーを意識したピアノ伴奏が多用されていることが明らかになった。

Key words：「幼稚園のための指導書 音楽リズム編」 坂元彦太郎 保育要領 幼稚園教育要領

#### 1. はじめに

筆者は、幼児教育の歴史を大まかに振り返り、流れを表にまとめた(表1)。明治・大正期においては、「唱歌」が音楽分野に該当し、歌うことの重要性が示されている<sup>1)</sup>。昭和23年には、戦後教育に対する施策として国が作った最初の幼児教育書である『保育要領—幼児教育の手びき—』が発表された。この中で「音楽」という用語が使われ、歌唱・演奏・鑑賞の各活動の基になる内容を確認することができる<sup>2)</sup>。その後、昭和31年に『幼稚園教育要領』が文部省から発表されるのだが、その間に発刊された『幼稚園のための指導書 音楽リズム編』に関して、近年注目が集まっている。当時の文部省学校教育局青少年教育課長であった坂元彦太郎氏の熱意により、音楽リズム編のみ刊行されたものであり、筆者はすぐに興味を持ち、本書を入手した<sup>3)</sup>。

本書のタイトルを素直に見ると、誰もが音楽に特化した内容の書物であり、坂元が音楽教育の重要性を特に感じていたのだと受け止めることだろう。しかし、詳しく調べていくうちに、音楽の重要性を慮ってのことはもちろんなのだが、正確には音楽と身体

の両方の活動の重要性を感じていたことが明らかになっている。当時の編集委員の顔ぶれを見ても、舞踊家をはじめとする身体表現の専門家が多く名を連ね、音楽専門家は作曲家の諸井三郎のみであった<sup>4,5)</sup>。

本書に関する先行研究は、田邊による本書刊行過程の研究<sup>6)</sup>をはじめ、入江による身体表現分野からのリズムの内容に関する研究<sup>7)</sup>、鈴木による唱歌に着目した研究<sup>8)</sup>がある。本書には「歌唱ならびに器楽合奏に用いる曲」39曲と「動きのリズムならびに器楽合奏に用いる曲(外国の民謡その他)」28曲の付録楽譜が掲載されているが、楽譜から読み取れる特徴に着目した研究はされていない。今回は、本書の音楽指導内容と掲載楽曲を詳しく読み取り、現在の幼児音楽教育と保育者養成において継承できる点について考えてみたい。

#### 2. 『幼稚園のための指導書 音楽リズム編』を読む

##### I 序論

本書の序論には、「音楽的経験やリズム表現の経験を発達させるためには、その機会の多いことと、多角的な練習がいちばん効果的である。」と記され、何度も「多くの機会を設けてやる」「乳児でも、

表1 我が国の幼児教育に関する流れ

明治8年	1875年	文部省に幼稚園開設伺い提出、許可	
明治9年	1876年	東京女子師範学校付属幼稚園規則制定	
		物品科・美麗科・知識科	3保育科目
		五彩球ノ遊ヒ、三形物ノ理解、貝ノ遊ヒ、鎖ノ連結、形体ノ積ミ方、形体ノ置キ方、木箸ノ置キ方、環ノ置キ方、剪紙、剪紙貼付、針画、縫画、石盤図画、織紙、畳紙、木箸細工、粘土細工、木片ノ組ミ方、紙片ノ組ミ方、計数、博物理解、唱歌、説話、体操、遊戯	25細目
大正15年	1926年	幼稚園令公布	
		遊戯、唱歌、観察、談話、手技等	5保育項目
昭和23年	1948年	文部省『保育要領—幼児教育の手びき—』発刊	
		見学、リズム、休息、自由遊び、音楽、お話、絵画、製作、自然観察、ごっこ遊び・劇遊び・人形遊び、健康保育、年中行事	12保育内容
昭和28年	1953年	文部省『幼稚園のための指導書 音楽リズム編』発行	
昭和31年	1956年	文部省『幼稚園教育要領』	
		健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作	6領域
昭和39年	1964年	第1回改訂	
		健康、人間関係、環境、言葉、表現	5領域
平成元年	1989年	第2回改訂	
平成10年	1998年	第3回改訂	
平成20年	2008年	第4回改訂	
平成30年	2018年	第5回改訂	

よい音楽を聞く機会の多い環境で育てられるならば、音楽を楽しみその感受性を高めていくことができる」「美しい音楽をたくさん聞いて楽しむ」「いつでもどこでも歌える歌をたくさん覚える」など経験を多く踏むことの大切さを述べている。

## II 幼児の音楽リズム指導目標

「幼児にいろいろな音楽的経験を与え、美しい心情を養い、幼児の生活を豊かにする。」と下線付きで記述され、この目標を達成するために、幼児が次の事からを経験するようにさせることとして、5つ提示されている。

- イ よい音楽（声楽・器楽）をたくさん聞く。
- ロ いろいろな種類の歌を歌う。
- ハ リズムに合わせて自由にからだを動かす。
- ニ いろいろな楽器やその音色に親しむ。
- ホ 自分の声で、いろいろな音を出してみる。

## III 幼児の生活と音楽リズムとの関係

「1 幼児は何を求めているか。」の項目には、4つの基本的な共通したものが提示され、「与える」

「設けてやる」「体得させる」「成功感をもてるように計画してやる」という記述からは、教師の意図を持った教育が色濃く出ている。

「2 幼児の特質と音楽リズム」の項目には、6つの記述があり、「聞いた音をまねるようにしむける」「できるだけ助長する」「聞かせて休息を与える」といった、指導のテクニック論が書かれてある。

「3 幼児はみんな音楽的素養をもっている。」では、6つの記述がある。

「4 指導上の基本的な諸問題」では、6つの記述があり、「幼児の自然的な生活の流れに従う」「幼児の発達に伴う興味に従う」「すでにもっている音楽的な芽ばえを育成する」「音楽によってそれぞれの個性をのばしてやる」「よい音楽を聞かせる」「大きくなってから役だつような音楽的発声の基礎を養う」とある。音楽芸術に対する永続性のある興味を育成することが願われていることが分かる。

## IV 幼児の生理的、心理的発達と音楽リズムとの関係

幼児の音楽的発達に関する記述をまとめて表にした（表2）。現在は何人かの研究者らが、声帯の

成長や歌唱の音域、子どもが好むリズムや響き、メロディー聴取の可否などの視点で年齢別に示している。筆者はそれらを独自にまとめて担当授業で学生に解説をしているが、このような音楽的視点からの発達表があると、活動を考えていく目安になり大変有効である。

## V 幼児の音楽経験の指導

この章では、「1 聞くこと」「2 歌うこと」「3 ひくこと」「4 動きのリズム」の4項目に分類され、各項目に(1)一般目標、(2)具体的指導目標、(3)指導、(4)評価について解説されている。ここでは、現在の「幼稚園教育要領」には見られない音楽専門用語も多く出現し、音楽の教員としては具体的で分かりやすく、保育者養成を行う上での指針となりうる。

「1 聞くこと」の一般目標は「幼児の音楽経験を広く豊かにし、よい音楽に対する愛好心を養い、

音楽をとおして自己を表現する能力を養う。」こと、「2 歌うこと」では「楽しく歌うことによって、歌いたい気持ちを満足するとともに、音楽的な経験を豊かにし、歌をとおして自己を表現する能力を養う。」こと、「3 ひくこと」では「楽器に対する興味と、これをひきたいという欲求を満たし、音楽を楽しみながら楽器をとおして自己を表現する能力を養う。」ことが掲げられ、を通して、いずれも「自己を表現する能力を養う」ことを目指す目標となっていることが分かる。「4 動きのリズム」に関しては「自由に優美に身体を動かす能力を養う。」とあり、リズム指導の重要性が記されている。それぞれの内容から特徴を書き出してみることとする。

### 「1 聞くこと」

「よい音楽の例」として、喜びや楽しさが感じられるもの(楽しき農夫、カッコウワルツなど、また

表2 幼児の生理的、心理的発達と音楽リズムとの関係

	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
(1) 一般的発達	イ 身体で表現をする。 ・腕や足を盛んに動かす。片ことをいう。すやすや寝る。うれしそう声を出す。やかましく騒ぐ声を出す。叫び声を出す。手をたたく。 ロ 五感への刺激に対し反応する。 ・笑いかけると動作で喜びを表わす。楽しいささやき声や歌などを聞いたときおとなしくなる。不愉快な音を聞くと叫ぶ。音楽の柔らかい音に反応する。 ハ ひとりで器具を動かす。 ・おもちゃ・棒・まわりにある品物などをにぎったり、どンドン打ったり、振ったり、落したりする。	イ 身体(頭・胴・腕・足)で表現する。 ロ リズムが変わると、同時に反応の様子も変る。 ・声量と声の強さが増す。簡単なことばや簡単な調子をハミングする。歩いたり走ったりする。 ハ いろいろな物音や、人の声の変化や、調子をまねる。 ニ 韻んやリズムカルな文句に興味をもつようになる。 ホ 音響の効果に関心をよせる。 ハ 楽器で音を出すために指を使うようになる。	イ 身体で表現をする。 ・スキップしたり、走ったり、手をたたくときにリズムをつける。 ・よちよちした足どりで歩いたり、走ったり、とんだりはねたりして、愛きょうよくリズムに合わせてからだを動かすことができるようになる。 ロ 発声と聴覚とがつりあって発達する。 ハ ひとりで歌ったり、歌で話をするのが急速に発達してくる。 ・歌が活発に歌えるようになる。 ・何かするとき、常にハミングするようになる。 ・高くで歌えないときは、低く移調してやれば楽に歌えるようになる。 ニ 音の高さや強さ、曲の速さがわかる。 ホ 簡単な節を即興的に口ずさむ。 ・自由に節を口ずさむようになると、三つないし五つぐらいの音符でできている節は、たやすく歌えるようになる。	※3歳児であげた各項目の発達がいつそう著しくなる。 イ まわる、でんぐりがえし、とぶ、ギャロップ、つまさきで片足とびができる。 ロ たくさんの歌を覚えるようになる。 ハ いろいろの種類のリズムを楽しむ。	イ 片足で立ち、からだの平均がとれるようになる。 ロ 簡単な歌をからだで表現できるようになる。 ハ 奨励すれば、いろいろな動きをもって喜んでリズム表現をする。 ニ 歌いながら遊ぶのを喜ぶようになる。 ホ いろいろな音(音色・高さ・強さなど)を区別する感覚が発達する。 ハ いくつかの違う旋律を聞き分けることができる。 ト 遊んでいるときに、即興的に歌うようになる。
(2) 楽音に対する反応			イ 楽器に注意するようになる。 ロ 音楽に耳を傾け、節のくり返しを喜ぶ。 ホ 音を出すものを喜ぶ。 ニ リズムのはっきりした音楽を喜ぶ。 ハ 旋律のはっきりした音楽を喜ぶ。 ハ 強いびくりするような音の出る楽器をこわがる。 ト 非常に柔らかな音を聞くとまねる。	※3歳児であげた各項目の発達がいつそう著しくなる。 イ 音楽のいろいろな能力に個性の違いを示すようになる。 ロ いろいろな異なった音色に興味をもつ。	※4歳児であげた各項目の発達がいつそう著しくなる。
(3) 楽器に対する反応			イ 指の運動が発達し、楽器をもて遊ぶ。 ロ リズミカルに動くおもちゃや揺れる木馬に興味をもつ。 ハ 楽器のリズムや音に対して喜びをもち続ける。 ニ リズム楽器で活発に伴奏する。	イ 簡単な楽器をひきたがる。 ロ いろいろな楽器をひいたり、その特性を発見したりすることに興味をもつ。 ハ 助言してやるなら、簡単な楽器(草笛など)をつくることができる。	イ 簡単な楽器をひくことを非常に喜ぶ。 ロ 楽隊やピアノで旋律をひくことを非常に喜ぶ。 ハ 楽しく遊ぶための小グループ演奏ができる。 ニ リズムバンドで演奏できる。
(4) 音楽と社会性			イ 少しの間、ほかのこどもといっしょに遊べる。 ロ 他人といっしょにいるときよりも、ひとりでいるときのほうがよく歌う。 ハ 他人といっしょに楽器遊びをするよりひとりで観察しているほうが多い。	イ 他人の前で歌えるようになる。 ロ 他人といっしょに歌える。 ハ 他人を見たまねたがり、2、3人の友だちと遊ぶ。 ニ 装飾したりすることを覚えるようになる。	※4歳児であげた各項目の発達がいつそう著しくなる。

はピアノ曲の独奏などで明朗な感じのもの)、静かなもの(白鳥、そのほかピアノ・バイオリン曲の独奏など)、活発なもの(トルコマーチ、そのほかリズムカルなもの)、優美なもの(ワルツ形式のもの)、が紹介されており、西洋音楽の名曲が見られる。さらに「音楽を聞いて、感じを話したり、ほかの音楽と比較したりする。(たとえば速度…速い・おそい、気分…元気・静かなど)」と書かれているように、音楽的要素を知覚しながら曲想を感じることができていることを意識していることが分かる。

## 「2 歌うこと」

「幼児に適当な歌を用意する」として、幼児が動くものが好きであるという観点から「動物(はと・すずめ・ひよこ・ちょうちょう・いぬ・ねこ・さる・きんぎょ・こい・てんとう虫)、乗物その他(きしゃ・じどうしゃ・ふね・とけい・かざぐるま)、その他、花や遊び、行事、自然現象などの題材を推奨している。

歌唱教材は、幼児の音楽的な発達段階に即したものと、

- ・声部は単声のもの
- ・旋法は長音階のもの、または日本音階の陽旋法のもの
- ・調子はハ長調・ト長調・ヘ長調・ニ長調
- ・拍子は2拍子を多く、4拍子・3拍子はそれに次ぐ
- ・リズムは次の程度のもの(八分音符、四分音符、二分音符、全音符、付点四分音符、付点二分音符)
- ・音域は一点二音から一点口音までの6度以内がよい
- ・形式は一部形式を主とする
- ・長さは8小節から12小節が適当である
- ・伴奏は、簡明な和音伴奏を主とする
- ・歌詞は幼児に適当なものとし、長さ(節数)は1節ないし2節とする
- ・ことばは幼児の用語を主体としたもの

以上のように、かなり詳細に指定をしており、後で触れる付録楽譜の内容とも合致する。

歌うことから「創造的な芽ばえを育てる」ことに

も触れているが、これだけ厳密な指導法が示されていると、創造的活動に対する印象がやや薄くなっている。

## 「3 ひくこと」

まずは、子どもたちが楽器に対する興味をもち、気持ちのままに喜んでひきたがることが重要である。その過程を経てから、「歌や行進曲に合わせて創造的にリズム楽器をひく」という具体的指導目標が掲げられている。

幼児が使用する楽器として、「幼児の発達過程と楽器演奏の技術的難易からみて、当然リズム楽器の合奏に限定されよう。」とし、大だいこ・小だいこ・タンブリン・シンバル・トライアングル・鈴・カスタネット属・拍子木・木魚、このほか、貝がら・四つ竹・竹筒などを挙げている。さらに「旋律楽器、和音楽器を併用すれば、楽器の組み合わせによる音色の変化と立体感のため、音楽に対する喜びは一層深くなり、やがてはその表現力を一段と高める結果ともなる。」と活動の発展を提案している。そして、最後の締めくくりとして「演奏技術よりも曲の気分を表わすとか、協同的な態度を養う。」とし、音楽の力が生かされる協同性についてすでに示されているのが興味深い。

## 「4 動きのリズム」

基礎的指導をするにあたり、発達に即した系統的な指導の段階が考えられ、その順序を示している。このような具体的な指導法の記述は、これまであまり目にしたことがない。

- ・速度感を養うことを主とする(アンダンテ、アレグロの速度感を感じ、さらに速度変化)
- ・強弱感を養うことを主とする(全体の強弱から部分的な強弱へ、速度は変わってはならない、アクセントの練習)
- ・拍子感を養うことを主とする(アクセントの練習をじゅうぶんにすれば、拍子感に導かれる)難易の順序は、2拍子→4拍子→3拍子の順で取り扱う。

このような基礎的な指導は、「くり返し行う」というような方法をとるべきではなく、幼児の興味・関

心をとらえ、その生活に即して、歌や楽器あそびなどと結びつけ、生活を楽しみつつ、知らず知らずのうちに基礎的な能力を養うようにくふうすることが望ましい。」と述べられている。速度感、強弱感、拍子感は、〈音楽を形づくっている要素〉の「速度」「強弱」「拍」であるため、幼児期に身につけたい最重要項目である。

### 付録楽譜

ここには、「歌唱ならびに器楽合奏に用いる曲」39曲と「動きのリズムならびに器楽合奏に用いる曲(外国の民謡その他)」28曲が掲載されている。

「歌唱ならびに器楽合奏に用いる曲」において、へ長調が一番多く、次いでニ長調、ト長調、ハ長調、イ短調であった。拍子については2/4拍子が全体の82%を占め、次いで4/4、3/4が3曲ずつ、4/8

が1曲あった。速度においては、全て♩=80以上の軽快な曲で、♩=100以上の曲が24曲あった。音域については、8度(例えばドからド、レからレなど)が46%、次いで6度が26%、9度が15%であった。旋律の使用音符は、八分音符、四分音符がほぼ100%、十六分音符、符点八分音符の順であった。その他、ピアノ伴奏譜全般に見られる特徴があった。それは、左手はオクターブや三和音、右手は3度や6度の重音が多用されているという点である。和声はI・IV・Vが基本であり、たまにドッペルドミナントが使われているが、メロディーとバス音の左右単音ではなく、どの瞬間もオクターブや和音などで重音にしてハーモニーを作り出していることに気づく。これは、ハーモニー感を大切にしている表れである。(表3)

「動きのリズムならびに器楽合奏に用いる曲」にお

表3 付録楽譜「歌唱ならびに器楽合奏に用いる曲」の調査

	タイトル	調性	小節数	拍子	速度	最低音	最高音	八分音符	四分音符	十六分音符	二分音符	付点四分音符	付点八分音符	付点二分音符	前奏	後奏	左手	右手	I	IV	V	その他	
1	桜	F	6	2/4	80	f	r'	○	○	○							三和音、Oct.		○	○	○		
2	ちょうちょう	G	8	2/4	80	r	r'	○	○	○								三度、和音					
3	ひらいたひらいた	a	11	2/4	100	m	r'	○	○	○							Oct.、三和音	和音、三度					
4	むすんでひらいて	C	16	2/4	104	d	l	○	○		○						三和音、Oct.		○	○	○		
5	ぶらんこ	D	12	2/4	80	m	s	○	○	○							分散和音						
6	かごめ	a	10	2/4	96	m	s	○	○	○			○										
7	汽車はっば	C	12	2/4	104	m	r'	○	○			○					Oct.	和音		○	○	○	
8	ちゅうりっぷ	F	12	2/4	92	f	r'	○	○								Oct.	三度、重音		○	○	○	
9	ままごと	a	12	2/4	92	m	d'	○	○	○			○					三度、六度					
10	くつがなる	D	17	4/4		r	r'	○	○		○	○	○	○			三和音、Oct.		○	○	○		
11	こいのぼり	C	16	3/4	116	d	d'	○	○		○							三度、六度					
12	たんぼぼ	G	12	2/4	84	r	r'	○	○	○			○					六度、和音					
13	とけい屋のとけい	F	12	2/4	100	d	d'	○	○	○		○		○			三和音、Oct.		○	○	○		
14	雨	C	24	2/4	104	r	m'	○	○									三度、六度		○	○	○	
15	ひよこ	F	12	4/4	108	f	r'	○	○									三度					エコー
16	おうちの前	C	16	3/4	112	d	r'	○	○					○	○	○	三和音	六度		○	○	○	
17	金魚	G	12	2/4	88	r	r'	○	○	○		○	○					六度、三度					
18	お舟	D	16	4/4	116	r	r'	○	○		○						三和音、Oct.	六度		○	○	○	エコー
19	水遊び	G	12	2/4	100	r	r'	○	○	○		○					Oct.			○	○	○	
20	かみなりさま	D	12	2/4	96	r	r'	○	○	○		○						三度、六度					
21	砂山	F	8	3/4	108	f	r'	○	○		○						三和音			○	○	○	
22	かけっこ	F	12	2/4	120-138	f	r'	○	○	○		○						和音、三度					
23	海	D	18	2/4	100	r	r'	○	○		○	○	○				三和音、Oct.	五度		○	○	○	
24	遠足	D	16	2/4	100	r	r'	○	○	○		○						五度、六度、三度					
25	菊の花	F	8	2/4	108	f	r'	○	○		○							三度					
26	もみじ	D	16	2/4	104	r	r'	○	○		○							三度、六度、五度					
27	ちゅうちゅうねずみ	D	8	2/4	108	r	r'	○	○	○							三和音、			○	○	○	
28	お正月	D	8	4/8	108	r	r'	○	○	○		○						和音、三度					
29	郵便屋さん	G	12	2/4	80	r	r'	○	○	○		○	○					六度、三度					スタッカート
30	自動車	F	12	2/4	108	f	r'	○	○		○							六度、三度					
31	おさる	F	16	2/4	100	d	r'	○	○								Oct.	三度、六度		○	○	○	
32	雪	F	12	2/4	96	r	r'	○	○	○							Oct.	和音、六度、三度		○	○	○	
33	煙	F	20	2/4	116	d	r'	○	○		○		○				三和音、Oct.	和音		○	○	○	メロディーなし伴奏
34	豆まき	D	12	2/4	100	r	r'	○	○									和音、六度、三度		○	○	○	
35	あかちゃん	F	8	2/4	80	f	r'	○	○	○								五度、六度、三度		○	○	○	
36	ぎっこんばったん	F	16	2/4	96	f	r'	○	○									和音、三度、五度、六度		○	○	○	
37	おにごっこ	G	12	2/4	112	r	r'	○	○		○							三度、六度		○	○	○	
38	おひな様	F	16	2/4	92	d	r'	○	○									六度、三度、五度		○	○	○	
39	おもちゃのマーチ	F	20	2/4	100	d	r'	○	○									三度		○	○	○	

いては、3/4拍子や6/8拍子の曲、アウフタクトの曲、速度変化する曲、転調する曲、三連符を用いた曲などが出現する。一番多い調性はト長調であり、次いでハ長調であった。2拍子・4拍子系の曲は全体の86%を占め、速度もAndante（歩くような速さで）が一番多い。また、mfとpまたはfとpの「強弱」と「呼びかけと答え」を掛け合わせたものや、スタッカートとレガートで音の長短の対比を表わした曲もあった。「(外国の民謡その他)」と補足があるように、どこかで耳にしたフレーズ（糸まき、てをたたきましょう、某音楽教室のCM曲、ブルグミュラーの「アラベスク」、「きらきら星」に似た曲も用いられていた。(表4)

### 3. まとめ

現在の「幼稚園教育要領」の文章は、「受け止める」「共有する」「共感する」「配慮する」「整理する」「援助する」といった温かい視点での表現がなされている。一方、『幼稚園のための指導書 音楽リズム編』は音楽教育色の濃い内容であり、『幼稚園教育要領』には見られない音楽的な指標が明確に記されている

ことが分かった。具体的には、幼児の年齢別に見られる音楽的発達についての記述がある点、幼児の音楽経験の指導として、速度感・拍子感・強弱感といったいわゆる〈音楽を形づくっている要素〉に結びつく音楽基礎能力の指導法についての記述がある点、その基礎的指導をするにあたり、発達に即した系統的な指導の段階が考えられ、その順序を示している点、I・IV・Vを主軸としたハーモニー感の獲得を目指した保育者のピアノ伴奏技術の必要性を示唆した点である。

本書の随所で見られるように、坂元彦太郎は子どもの内側から起こる自由な表現を期待しており、子どもの表現力を音楽と動きの活動を通して育みたいと切望していた<sup>9)</sup>。これは現在の子どもに対しても願われることであり、幼児教育の基盤となる変わらない考えであるということが分かった。本書の幼児音楽教育における明確な記述は、現在においても指針となり得るものである。今後の保育者養成においても参考にしていきたい。

表4 付録楽譜「動きのリズムならびに器楽合奏に用いる曲」の調査

	タイトル	調性	小節数	拍子	速度	合奏	特徴
1	ものまね	G	8	4/4	Andante		強弱、mf-p
2	いっしょに伸よく	F	12	2/4	Andante		
3	馬乗り	D	24	2/2	Andante		アウフタクト、左二分音符
4	手拍子そろえて	G	16	4/4	Allegro		
5	お友だち	F	16	2/4		カスタネット、鈴、タンブリン、大太鼓	
6	出して引っ込めて	D	8	2/4		カスタネット、タンブリン、大太鼓	十六分音符
7	汽車が走る	A	19	2/4	Andante-Moderato-Allegro-Presto-Allegro-Moderato		スタッカート、速度変化
8	かいぐり	C	8	2/4	Allegro		糸まき
9	山のぼり	G	12	2/4	Moderato		アウフタクト
10	ゆうらゆら	A	10	6/8	Andante		
11	波とび	F	16	2/4	Moderato		ヤマハ音楽教室
12	不思議な話	G	16	C	Moderato		f-p
13	すもう	C	8	2/4			付点のリズム
14	速いマーチ	C	16	2/4	Allegro		
15	伸よし	G	12	2/4	Allegretto		p-mf-f
16	影踏み	G	16	3/4	Andantino		呼びかけと答え、mf-p
17	鬼の踊り	a	26	2/4	Allegretto		ブルグミュラー「アラベスク」
18	みんなで楽しく	C	16	4/4			二部形式、f
19	お仕事	D	16	C	Moderato		DからGに転調
20	いらっしゃい	C	8	3/4	Andante		アウフタクト
21	とんでまわって	C	16	2/4	Moderato		スタッカート、p
22	スキップスキップ	G	16	6/8	Allegro	カスタネット、拍子木、タンブリン、トライアングル、大太鼓	
23	1と2と3	G	16	2/4	Andante	カスタネット、拍子木、タンブリン、シンバル、大太鼓	
24	お百姓さん	G	16	2/4	Allegro		スタッカート
25	おててをたたいて	D	16	2/4	Andante	トライアングル、カスタネット、拍子木、タンブリン、大太鼓	てをたたきましょう
26	輪になって	C	16	2/4	Andante		呼びかけと答え
27	うさぎ	F	8	C	Andante		三連符
28	お花つみ	G	24	2/4	Andante		きらきら星

#### 4. 引用文献

- 1) 文部科学省(編),『学制百年史』幼稚園の創設, 1981  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1317591.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317591.htm)
- 2) 荒井洸, 1948年・文部省『保育要領—幼児教育の手びき—』を読む, 新読書社, 2020
- 3) 文部省, 幼児のための指導書 音楽リズム編, 明治図書出版, 1953
- 4) 坂元彦太郎, 「音楽リズム」の成り立ちについて, 幼児の教育59巻6号, 1960
- 5) 坂元彦太郎他, 幼稚園における音楽リズムの指導は, どのようにあったらよいか—教育実際指導研究会協議会より—, 幼児の教育59巻8号, 1960
- 6) 田邊圭子, 『幼稚園のための指導書 音楽リズム』(昭和28年)刊行過程の研究(1)~(3), 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要7~9号, 2014~2016
- 7) 入江眞理, 「保育要領」(1948), および『幼稚園のための指導書 音楽リズム』(1953)における「リズム」の内容に関する研究—戸倉ハルと邦正美のリズム観とその影響について—, 静岡産業大学論集24巻2号, 2018
- 8) 鈴木慎一郎, 『幼稚園のための指導書: 音楽リズム編』における「唱歌」—「歌唱ならびに器楽合奏に用いる曲」に着目して—, 鳥取大学地域学部紀要17巻1号, 2020
- 9) 稲田公子, 坂元彦太郎の保育観をたどる—岡政との出会いを手掛かりに—, 保育学研究第58巻第1号, 2020